

江川剛史自伝
0歳～32歳

江川剛史

・江川剛史誕生

江川剛史は、
1982年11月5日、

日本の東京都に生まれた。

東京都の飯田橋にある厚生年金病院で、
生まれたそうだ。

体重は約2800g。

名前は、

剛史。

仏教の守護神である、

金剛力士のように、

強く生きて欲しいということから、

名づけられた。

幼少期のことは、

勿論、

幼い頃だから、

どのように生きていたかは、

はっきりと覚えていない。

ただ、赤ん坊の頃、

笑った時に写真を撮ろうということで、

父がカメラを私に向けた時に、

私は言葉を理解していたから、

ニコリと笑って写真を撮られた。

その写真は、
今も私の自宅に飾られている。
それから、数年が経ち、
近くの交通公園へ父と行った。
自転車に乗る練習だ。
始めは、
自転車の後ろを押さえてもらいながら自転車に乗り、
そして、父が手を離し、
私は自転車を一人で乗れるようになった。
これは今も覚えている父との思い出である。
それから、しばらくして、
幼稚園に通い始めた。
幼稚園では、
母が作ったお弁当を食べていた。
美味しかった。
友達とケンカすることもあったが、
無事、幼稚園は卒業した。
この頃、覚えている遊びと言えば、
闘いゴッコだった。
バーサルナイトガンダム、
そしてネオブラックドラゴン。
この二人は、
実は、融合すると、
スペリオルドラゴンという、

黄金竜になるのだが、
その二つのプラモデルで、
一人で闘いゴッコをし、
ネオブラックドラゴンに、
苦戦し、
負けそうになりながらも、
必ず、バーサルナイトガンダムが勝つ。
そんな遊びをしていた。
こういう部分を見ると、
孟子の性善説だなと思う。
人間の本質は善であるということだ。
だが、しかし、
この頃、
私は、意図的に蟻を踏んだ事がある。
罪も無い蟻を踏んだのだ。
それを見た母親が、
『蟻も生きているのよ。』
そう言い、
私は泣いた。
「ごめんなさい。ごめんなさい。」
そう言って泣いた。
こう考えると、
荀子の性悪説も正しいと言える。

人間の本質は悪であり、
それを律するために規範が必要だということだ。
私には規範は無かった。
善も悪も知らぬまま、
学びながら生きていた。

・小学校一年生、二年生時代。

地元の区立の小学校へ入学した。

勉強は簡単だった。

100点ばかり取った。

しかし、

答えは分かっていたけれど、

手を挙げて発言するような事は無く、

無口な少年だった。

その頃の最新ゲーム機である、

ファミコンを買ってもらったので、

遊んだ。

初めて遊んだファミコンソフトは、

スーパーマリオブラザーズ3だった。

ゲームのスキルの無かった私は、

一面でも苦戦した。

でもワープの笛を手に入れたりして、

最終ステージの8面にも行ったが、

道を通ると手が出てきて、

ステージへ入る面で、

大苦戦し、

その頃の私では、

スーパーマリオブラザーズ3は、

クリア出来なかった。

その頃の私にも悪の部分があった。
意味も無く、
同級生の男の子の背中を叩く事をしていた。
その男の子は、
何故か決まって、
ストーブの前に来た。
私に叩かれるのを待っているのだ。
そうして私は彼の背中を叩いた。
叩きたいわけでもない。
時に、その男の子が悪いことをしたら、
思いっきり叩いたこともあったが、
ある日、
その男の子が私の背中を叩いた。
痛かった。
背中を叩いたら痛いんだなど分かった私は、
それから彼を叩かなくなった。
彼はストーブの前に来る。
でも私は叩かない。
そうして背中を叩くという、
いじめのような行為はやらなくなった。
私も幼少の頃、
母親に叩かれた事はあった。

虐待という程でもないが、
母親に叩かれる経験から、
私も人を叩くという罪悪感が育たなかった。
そうして、
こんな事になったんだと思う。
因みに、
彼とは大人になった時、
同窓会で会って握手をした。
私は謝罪した。
彼は、「オレも悪かったから。」
そう言っていたが、
悪いのは、暴力を振る罪深さを知らなかった私だ。
そんな感じで、
小学校2年生は過ぎて行った。

・小学校三年生時代。

小学校三年生になると、

女性の担任の先生が、

日記を毎日書いて提出するよう宿題を出した。

だから私は、

毎日、日記を書いた。

そうして書いた日記は、

大事なところには赤線を引かれて、

最後、花丸がされた。

一度だけ、私が悪いことをした時のことを書いて、

最後、花丸ではなく、二重丸だった。

でも、それ以外の毎日は、

全て花丸だった。

私は毎日のように一人で家で、

ファミコンをしていたから、

運動は苦手だった。

でも、

縄跳びの表を貰った時には、

頑張って自主練習を試してみた。

結果、二重飛びが11回跳べるようになった。

自宅の前で二重跳びを跳べた私を見て、

父は喜んでいて。

バレンタインデーの日、

私は同級生の男子に誘われて、

遊んでいた。

そうして家へ帰ると、

同級生の女の子からバレンタインデーのチョコを、

渡しに来てくれた子がいたことを、母から聞いた。

チョコレートはハート型のチョコレートが沢山入ったチョコレートだった。

私の初めてのバレンタインデーのチョコだった。

嬉しかった。

毎日少しずつ食べた。

でも、

その女の子には、

チョコのお礼も言わず、

ホワイトデーにも返さなかった。

本当に、

私は臆病な男の子だった。

・小学校高学年時代。

小学校4年生にもなると、

私は毎日のように自宅でゲームをしていたから、

ファミコンも上手になっていた。

同級生の男の子の家に行った時に、

同級生は、

ファイナルファンタジーⅣというゲームをやっていた。

私は面白そうだなと思い、

地元の中古ゲームショップで、

ファイナルファンタジーⅣイージータイプを買った。

ファイナルファンタジーⅣイージータイプには、

暗黒騎士だったセシルが、

パラディンになり、

暗黒騎士だった過去の自分と闘うシーンがあった。

この頃の私にも、

悪の心があった。

だから、

自分の悪の心を倒す良いきっかけだと思い、

暗黒騎士だった過去のセシルに負けないよう、

必死で闘った。

そうしてパラディンであるセシルは勝った。

私は自分の悪に勝てたんだ。

そう思った。

そうしてファイナルファンタジーIVイージータイプは、
私が初めてクリアしたRPGゲームとなった。
そうして、
それから、
ファイナルファンタジーVや、
ドラゴンクエストVなど、
プレイし、
様々なRPGで冒険した。
私もいつか勇者のように世界を救いたい。
そう思った。
そんな日々を生きながら、
学校では、好きな女の子がいた。
可愛い子だった。
でも、その子は、
違う中学校へ進学したため、
私は初めての失恋をした。
私は、その頃、
J-POPを聴き始めていた。
だから失恋した時、
私はMr.Childrenのアルバム、
Atomic HeartのOverという曲を聴きながら泣いた。
そんな日々を生きて、
私は小学校を卒業した。

・中学生時代

私は中学生になり、

小学生の頃から、

三年生の時の担任の先生の影響で、

サッカークラブに入っていたから、

中学校でもサッカー部に入った。

私は、あまりサッカーが好きではなかった。

サッカーよりスーパーファミコンをしたかった。

でも、部活動をするのは必修だったから、

私はサッカー部に入った。

そうして先輩後輩の上下関係を学んだ。

先輩がサッカーボールを蹴って、

窓ガラスを割ったのに、

後輩の僕達のせいにされて、

顧問の先生に叱られた事もある。

こういうことから、

社会の理不尽さを学んだりもした。

中学校2年生の時、

学校の先生から、

海外派遣生のお話を聞いた。

海外派遣生に選ばれた人は、

無料で海外へ10日間、

学びに行けます。

そう聞いた私は、
立候補し、
見事、海外派遣生に選ばれた。
まず、5日間、マレーシアへ行った。
マレーシアのホテルで、
初めて、チャーハンを海外で食べた。
日本のチャーハンの方が美味しいかなと思った。
そうしてマレーシアの中学校へ行き、
学生達と交流した。
折り紙を教えたり、
言葉が伝わらないながらも、
英語で話をしたりした。
そして、
次に、5日間、
シンガポールへ行った。
初めてのホームステイだ。
ホームステイ先の男の子と、
タクシーに乗って、
プールへ遊びに行ったりした。
そうして最終日、
シンガポールの人々と、
お別れする事になり、
私は涙を流した。

そして成田空港から、
家へ帰るまでのバスで、
同じ海外派遣生だった女の子から、
付き合っ欲しいと告白された。
私は彼女を作ったことが無かったから、
良い機会だと思い、付き合った。
でも、
この子とは、
何度かデートはしたけれど、
違う中学校だったため、
遠距離恋愛だったし、
今のように携帯電話も無い。
メールも無い。
だから疎遠になり、
キスも何もしないまま、
別れる事になった。
そして中学校2年生の3学期。
中学校1年生の時に見た、
3年生を送る会に感動した私は、
中央委員になり、
3年生を送る会の実行委員として参加した。
私は呼びかけという、
文章を読む係りになった。

こうして、
中学校は過ぎて行った。
サッカー部の方は、
あまり強くなく、
区の大会でも負けたりした。
私立開成中学校とも試合をしたが、
ボロ負けをした。
開成中学校には、
頭でも、運動でも負けるんだなと思った。
スーパーファミコンの方は、
相変わらず、
学校が終わったら、
やっていた。
ファイナルファンタジーVIでは、
ケフカという人造人間のせいで、
世界は滅ぼされてしまう。
でも、
世界破滅から、
人々は希望を持って、
また生き始める。
こうして私はゲームの中で冒険し、
世界を救い、
ゲームの世界から、
様々な事を学んだ。

テレビでは、
ドラゴンボールが放送されていて、
私は毎週必ず、
ドラゴンボールを見た。
私はドラゴンボールと共に生きてきたと言える。
孫悟空の成長と共に、
私も成長していた。
ドラゴンボールのサイヤ人編では、
ピッコロが孫御飯を守るため、
ナッパのエネルギー波を受けてしまう。
悪い心がかつて、
持っていた人でも、
自分を犠牲にしても、
誰かのためにすることもある。
私はピッコロの姿に感動をした。

・二松学舎大学附属高等学校時代。

私の中学校の成績は、

普通ぐらいだった。

その自分でも、

推薦を受けられる場所として、

二松学舎大学附属高等学校があったから、

この高校を受験し、

見事、合格した。

そうして二松学舎大学附属高等学校へ通い始めた。

この高校は部活は必須ではないため、

私はプレイステーションで遊ぶために、

部活動はやらなかった。

同級生の友達と、

学校で話し、

一緒に帰ったりした。

高校での勉強は、

難しいし、分かりづらい。

私は勉強意欲も無く、

何でもない生活をしていた。

でも、ある同級生の男子が、

尾崎豊の歌が良いと話しているのを聞いて、

TSUTAYA で試しに、

尾崎豊の CD を借りた。

一枚くらいなら良いかなと思い、
借りてみた、尾崎豊のベストアルバム、
『愛すべきものすべてに』。
聴いてみた時、
あまりにも良い曲だらけで、
私は驚いた。
そうして、
他の尾崎豊のアルバムを、
TSUTAYA で借りて、
私は聴いたりした。
しかし、
高校生だった私には、
悪の心があった。
悪い行いを日常的にしていたのだ。
そして、
ある日、
その悪い行いが頂点を極める。
私は自分の悪の衝動を止める事が出来ずに、
ついに行き着くところまで行き着いてしまったのだ。
もう止めよう。
悪い事はしないようにしよう。
そう強く決意した時に私を救ったのは、
尾崎豊だった。

尾崎豊のライブベストアルバム、
MISSING BOY に収録してある、
MY SONG (僕が僕であるために)。

この曲を、

何度も何度も私は聴いた。

『僕は僕であるために勝ち続けなきゃならない
正しいものは何なのか それがこの胸に解るまで』

この歌詞を胸に、

私は、自分の悪を止め、
正しさを求めて生きようと決意した。

・大学生時代

私は自分が悪に染まった経験から、
道徳を教える教師になろうと決意した。

道徳を教えるには、
中学校の英語教師になるのが良い道だと思い、

私は大学受験で、
英語学科を中心に受験した。

そうして合格したのが、
大東文化大学文学部英米文学科だった。

私は大東文化大学に入学した。

大学では、
部活に入ろう。

そう思い、
私が選んだのは、

児童文化研究部だった。

中学校の教師を目指していた私には、
子どもと接する機会が必要だと思ったからだ。

私が体験入部した日は、
童話班の日だった。

だから私は、
そのまま、

児童文化研究部の童話班に入部した。

童話班では、
文化祭の時、
冊子に童話を掲載していた。
だから私も冊子に掲載する童話を書いた。
一作目はセミの話だ。
地中から出たセミは、
先輩のセミに出会うが、
僕らは、しばらくしたら、
死ぬということを、
先輩のセミから聞く。
そうして主人公のセミも、
土へ帰って行く話だった。
そんな風に、
毎年、
私は童話班で童話を書いた。
最後の作品は、
名づけられた種という作品だった。
ホープと名づけられた種が、
森の中を冒険し、
太陽のある場所に辿り着き、
そこで芽を出し
木になり、
そして森になる話だ。

そういう童話も書いたりした。

時に、

図書館で読み聞かせ会も開いた。

私はアンパンマンの紙芝居を選び、

子ども達に紙芝居を見せてあげた。

『さあ、僕の顔を食べて。』

アンパンマンの自己犠牲の精神に、

私は紙芝居をする方でありながら、

感動を覚えた。

そうして大学以外では、

池袋北口にあるファーストキッチンでアルバイトをした。

そこで同じアルバイトの女の子に、

バレンタインデーに告白されて、

私は付き合った。

私は、その子が好きだった。

でも、あまり好きだと伝えることも無かったし、

彼女の自分への愛情を疑っていた。

週二回、

デートをしていたが、

11ヶ月目の日、

私とその女の子は別れた。

理由は教えてくれなかった。

だから理由が気になった。

でも、

私とその子は別れた。

私にとって、

その恋愛は、

恋愛の失敗経験になるのだが、

この失敗から、

私は恋愛について、

様々な事を学ぶことが出来た。

・パソコンとの出会い。

大東文化大学では、

パソコンルームが無料で開放されていた。

私は大学に入って、

初めて本格的に、

パソコンを触り始めた。

まず始めは、

Yahoo JAPAN!に出会った。

まず Yahoo のカテゴリーページから、

無料ゲームや占いなどをしたりした。

パソコンは面白いな、

そう思っていた時に、

ふと検索枠に気付く。

今なら誰もが知っているが、

キーワードを入力すれば、

様々なホームページを検索出来る。

そのことに初めて気付いた瞬間だった。

こうして検索枠に気づいた私は、

それから数日後、

あるサイトに出会うことになる。

・巨大な自殺サイト、VOICEとの出会い。

興味本位で、

私は Yahoo の検索枠に、

『自殺』と検索した。

すると、

少年少女の落書き帳『VOICE』というページに出会った。

見てみると、

開かずの間というページがある。

クリックしてみると、

真っ暗な掲示板だった。

掲示板を見てみると、

様々な人が自分の苦しみを書いていた。

『いじめられた。』

『暴行された。』

『死のうと思う。』

様々な絶望の言葉が書かれていて、

私は、彼らを救うために、

掲示板にメッセージを書き始めた。

時には、

尾崎豊の歌詞を紹介したり、

死にたいという人には、

死なないで欲しい事を伝えたり、

私は自殺など、
全く考えた事のない、
楽観的な人間だったが、
絶望に生きる人々に対してメッセージを書いた。

・WCT 教育指導改革研究活動ホームページを開設。

私は大学でパソコンの面白さに気づき、

自宅でもパソコンをやるために、

親戚から貰ったパソコンに、

ネットを開通させ、

家でもパソコンを始めた。

まず始めた事は、

自分のホームページの作成だ。

私の部活の後輩も、

ホームページを開設していた。

大学生でもホームページは作れるものだと思った私は、

HTML 言語や FTP など、

ネット検索情報を頼りに、

ホームページを作った。

ホームページの名前は、

WCT 教育指導改革研究活動ホームページ。

教育で世界を変えようと考えて、

私はホームページを作成した。

WCT とは、

Wish Come True のこと。

願いは叶う。

叶う条件を満たすことさえ出来れば。

この言葉を胸に私はホームページ活動を開始した。

・ホームページで相談活動を開始。

少年少女の落書き帳 VOICE で書き込みをしていく中で、

私と交流したい人としたくない人がいることを、

感じた私は、

私は自分のホームページに掲示板を設置し、

そこで無料相談を行う事を始めた。

無料相談カウンセリング掲示板である。

少年少女の落書き帳から人が流入してきたのか、

相談してくる人は、

後を絶たなかった。

偽という人と設置した討論掲示板で、

討論をすることもあった。

私は、リストカットをする女性や、

うつ病の人、

人格障害の人など、

様々な相談を受けていった。

・教育実習

大東文化大学で教職を履修していた私は、

教員免許を取得するために、

教育実習に参加した。

生徒たちは悪い子ではなかったが、

まさに思春期の子ども達だった。

教師という仕事もストレスのかかる仕事だと感じた私は、

ELLE GARDEN のジターバグという曲を、

家で聴いて、

自分を奮い立たせた。

『いつだって君の声がこの暗闇を切り裂いてくれる
いつかそんな言葉が僕のものになりますように
そうなりますように』

この歌詞のように、

時にいじめを止めたり、

朝礼で、

私は中学校の時に教師を目指して、

ここまで来た。

そういう話をしたりした。

教育実習も終わり、

私は教員免許を取得した。

大東文化大学を卒業し、

埼玉県教員採用試験を受けたりもしたが、

結果は不合格だった。

・カナダ留学とニューヨーク。

教員採用試験は、

不合格だったが、

私は教師の夢を諦めきれず、

カナダの都市、

バンクーバーへ 10 日間の留学へ行くことにした。

バンクーバーでは、

フィリピン人の家へホームステイをした。

男の子とパソコンで遊んだりしたが、

食事は、

アンケートに苦手な食べ物として書いた、

レバーが入ったシチューが出されたので、

食べられなかった。

カナダの留学先のカレッジでは、

中国人と韓国人もいた。

席が足りなかつたりした時には、

一つの席を半分ずつ座ったりすることもあった。

カナダ留学を終えた私は、

次はアメリカのニューヨークへ、

一週間の一人旅をすることにした。

ニューヨークでは、

国連本部へ行ったり、

世界貿易センタービル跡地へ行ったり、

ジョン・レノンが殺されてしまったダコタ・ハウスや、
セントラル・パークへ行った。
そして電車に乗って、
ワシントン D.C.にも行った。
ホワイトハウスの前まで行ったり、
リンカーン記念堂では、
マーチン・ルーサー・キング・ジュニアと同じ風景を見ながら、
I have a dream.

私には夢がある。
全ての存在を幸せにするという夢を。
そう心で呟いた。
そんな感じで、
私は、
大人になった自分で、
海外の世界というものを肌で学ぶ機会を得た。

・個別指導塾時代

私は、

次の教員採用試験まで、

お金を稼ぐため、

個別指導塾の契約社員となった。

個別指導塾では、

最初、

契約社員になった時点で、

生徒と連絡を取ったり、

性的な関係にならないことなど、

契約書が渡された。

勿論、

私は、

教師になるのが夢であり、

生徒に手を出す気は無いので、

契約書にはサインをした。

そうして私は、

小学生、中学生中心に、

英語や国語、数学、日本史などを教えた。

しかし、

WCT 教育指導改革研究ホームページ内で、

無料相談掲示板に、

大量の相談が書かれ、

メールでも大量に相談に乗っていたため、

寝不足になり、
個別指導塾に遅刻することもあり、
私は個別指導塾をクビになった。

・心の鞭とうつ病。

私は大学生時代、

聖書の授業を受けていた。

私は大東文化大学で、

初めて聖書を買ひ、

聖書を読んだのだ。

そうして聖書の素晴らしさに気づき、

イエス・キリストの思想に影響を受けていった。

そうして、

イエス・キリストの受難をテーマとした、

映画パッションも見て、

私はイエス・キリストに深く影響を受けていた。

そして、

ある日、

私は高校生時代に犯した罪を振り返った。

自分の悪い行いを悔い、

私は映画パッションで鞭を打たれているシーンのように、

私は自分に心の鞭を打った。

深夜、部屋で一人、

心の鞭を打ち続けた。

結果、

次の日の朝、

私は死にたい衝動が抑えられなくなったのだ。

私は母にそのことを告げ、
精神科へ行くことにした。

始め、精神科では、
心理テストの用紙が配られた。

私は、
その心理テストを出鱈目に○をつけた。

そうして医師に、
死にたい衝動が抑えられない旨を伝えると、

入院を勧められ、

私は精神病院に入院した。

・初めての精神病院。

この精神病院は、

暗く陰鬱な雰囲気だった。

私は MD ウォークマンで音楽を聴いたりしながら過ごした。

精神病院の医師に、

電気ショック療法を受ける気はあるか聞かれ、

私は、それを受けると答えた。

そうして私は精神病院を退院した。

・引越正社員、大学院受験時代。

教師になれず、

ホームページで相談活動をしていた私は、

心理カウンセラーになりたいと考えるようになっていった。

悩み苦しんでいる人を救えるような人間になりたいと思ったのだ。

そこで、

心理系の大学院に通おうと考えた。

そして学費を稼ぐために、

何かしようということで、

月収 32 万円保証のある引越会社へ入社した。

正社員だ。

様々なマンションや家の引越をした。

途中から事務も任されるようになり、

事務と引越作業の仕事をしたりした。

でも、

心理系大学院の学費が貯まった時点で、

引越会社は退職した。

そうして心理系大学院に受験した。

筆記試験には合格した。

しかし、面接をしたところ、

『この大学では、貴方が学びたいようなことは学べない。』

そう言われたため、

私は大学院で学ぶ気持ちを失った。

そうして大学院に通わずに、
心理カウンセラーとして開業する道を志すようになり、
NLP プラクティショナーコースや、
米国催眠療法協会認定催眠療法士講座、
産業カウンセラー講座など、
様々なカウンセラー講座を受け、
明治大学大学院教授や、
早稲田大学大学院教授など、
多数の大学教授が講師を務める講座を受けていった。

・遊園地での出来事。

心理カウンセラーの講座を受けながら、

仕事もしなければならない。

そう考えた私は、

短期のアルバイトとして、

遊園地のアルバイトをすることにした。

警備員のアルバイトだ。

某遊園地の警備員のアルバイトをして、

数日後、

その日は雨の日だった。

事務所へ行くと、

今日は、違う職場へ行ってくれ。

そう言われた私は、

木造の古い社員食堂へ行った。

古い社員食堂、

何か嫌な予感をした私は、

その社員食堂を調べてみる事にした。

二階へ行くと、

使われていない部屋にテーブルや椅子、白衣などが置かれている。

落ちている絵を見ると、

ひよこを猫がジロリと見ている絵がある。

ポスターも落ちていて、

真っ黒な女性がウォータースライダーを落ちているポスターだった。

トイレは男女の共用トイレが一つ。
部屋にはミシンもあり、
ある個室には、
椅子が一個置いてあった。
その椅子に座ってみると、
何かメッセージが降りてきたような気がした。
そうして暗い方へ行くと、
ふと、その時、
幽霊のような白い幻影が私の顔を通り過ぎた。
そうして一階へ行くと、
ある部屋のカレンダーを見ると、
数年前のカレンダーが飾ってある。
下を見ると、
女性の名刺が落ちている。
そうして、
もう一つの部屋に入ると、
まな板が置いてある。
そのまな板の上には、
女性の水着ポスターが置いてあった。
不気味に思った私は、
そのまま仕事をせずに帰り、
そのアルバイトは退職した。
そんな時もあった。

・上野のホームレスにハンバーガー 50 個を渡す。

ある日、

自宅にある様々な本の中から、

マザー・テレサの本を選んで読んでみた。

マザー・テレサは、貧しい人に手を差し伸べていた。

その姿に、

私も何か出来る事はないか、

考えた結果、

上野公園にいるホームレスの人達を、

救おうと考え付いた。

自転車で上野公園へ向かう最中、

ホームレスを見かけた。

持っているのは、お金だけだったので、

小銭を渡すことにした。

『ありがとう。』

そう感謝された。

そうして、

JR 上野駅のガード下にいるホームレスに、

小銭を渡していった。

でも、

『わたしには使えないのじゃ。』

そう言う人もいたので、

お金ではなく、

食べ物にしようということで、

ホームレスの人に、

『上野には、
ホームレスは何人くらいいますか。』

そう聞いてみると、

『100人くらいいる。』

そう言われた。

そこで、

とりあえず、

マクドナルドで、

ハンバーガーを50個程、

買って、

上野公園のホームレスに、

ハンバーガーを配り始めた。

若い青年のホームレスもいて、

ハンバーガーは喜ばれた。

そうして、

このまま一日だけ、

何かプレゼントするだけでは、

三日坊主になる。

そう考えた私は、

次の日もホームレスに食べ物をあげようと、

自転車を漕いだ。

パンを買って渡そうとしたが、

何故か、いらないと言われた。

受け取ってくれるホームレスの人もいたが、

受け取らない人もいた。

そこで、

三日坊主にはなってしまったけれど、

また何か、

ホームレスの人に、

渡したいと思ったら、

その時、渡せば良い。

そう思って、

食べ物を渡す活動を止めた。

今思えば、

ハンバーガーではない方が良かったかなとか、

色々、反省点はあるけれども、

こういう活動が、

後の活動にも繋がったのではないかと思う。

・究極の愛と食物連鎖。

ホームページは、

WCT カウンセリングルームと名前を買え、

相談活動を続けていた。

究極の愛とは何なのか。

究極の存在とは何なのか。

究極の愛とは、

全ての存在を愛することではないか。

全ての存在とは、

人間だけでなく、

動物や虫や魚や植物も含まれるのではないか。

そう考えた。

全ての生物を愛するのであれば、

動物を殺した肉である、

豚肉、鶏肉、牛肉など食べるべきではないし、

勿論、魚も食べるべきではない。

植物には脳は無いが、

ストレスは感じるという。

ならば、野菜も食べれない。

それならば、

札幌一番味噌ラーメンなら食べれるだろうか。

いや、沸騰すれば、

それで微生物が死んでしまう。

それじゃあ何も食べれない。
何も食べて生きていけない。
外を歩けば、
何か生物を踏み潰してしまう。
何も出来ない。
人間は生きていく中で、
罪から逃れられない。
人間は死ぬべきなのか。
そう考えた私は、
断食を続けて家に引きこもった。
とうとう私は自殺も考えた。
冬の荒川の土手へ行き、
凍死しようと思った。
でも死ななかった。
心配した母は救急車を呼び、
私は精神病院へ入院した。
以前とは、違う精神病院だった。

・精神病院とニーチェと仏陀。

精神病院へ入院すると、

ベットとトイレのある部屋に隔離された。

最初は、ベットに手足を縛られた。

そうして数日後、

手足は自由になり、

個室で一人、

私は瞑想をした。

私が落ち着いたのを確認すると、

個室から、

テレビを見たり読書の出来る病棟へ移された。

私は母に、

今まで読みたいと思っていたけれど、

本棚に積んであるだけで、

読まなかった本を片っ端から、

持ってきて欲しいと伝えた。

そうして読んだ本が、

超訳ニーチェの言葉だった。

私は初めてニーチェに出会った。

その生の哲学に私は影響を受けた。

人間は生きるべきだ。

そう思った。

そうして次に、

私は、

図解雑学ニーチェを読んだ。

この本には、

ニーチェの哲学理論が、

分かりやすく書かれていた。

永劫回帰。

この人生が何度繰り返されようと、

それを肯定し生きる。

それが超人である。

その考えを知り、

私も、

この人生が何度繰り返されようと、

それを肯定し、生きていけるよう、

正しい人生を生きようと決意した。

そうして次に読んだのは、

超訳ブッダの言葉だった。

この本には、

怒りを手放す大切さが書かれていた。

私は、以前、

強姦カテゴリーのアダルトDVDを見て、

泣き叫ぶ女性を犯す男優を見て、

強い怒りが生じたことがあった。

そうして強姦被害撲滅ページなども、

ホームページに作ったのだが、

そういう怒りが私にはあった。

社会に対しての怒りもあった。

そういう怒りを手放す事が大事だと、
超訳ブッダの言葉で学んだのだ。

一日中、読書をしていた私に、
ある看護師が声をかけた。

この看護師は医師になるために、
研修に来ている看護師だった。

研究論文を書くために、
協力してくれないかと声をかけられた私は、
協力すれば、
世のためにもなると思い、
協力し、
その看護師から定期的に、
カウンセリングを受けるようになった。

過去の悩み苦しみから、
食物連鎖まで話した。

『人を殺したいと思う？』

そう聞かれたこともある。

『人は絶対に殺さない。殺したくない。車も運転しない。』

そう私は答えた。

自分の罪についても、
具体的に何を話したか。

その一歩手前まですべてを話した。

因みに私は殺人や強姦や詐欺は行っていない。

ただ罪深い事をした。

その罪は生涯、

忘れず、

永遠に背負い続けなければいけない罪の一つであると思っている。

私は精神病院に入院する前、

世界と闘っていた。

結果、

ボロボロに負けたのだ。

これからは、

自分の幸せを求めて生きて行こう。

そう考えた私は、

精神病院を退院し、

ネットビジネスを行うようになる。

・ネットビジネスと仕事。

自分の幸せを求めて生きていく事にした私は、
精神科の先生が勧める清掃の仕事を探す事にした。

そうして、

ある清掃会社に勤めることになる。

そうして清掃の仕事をしながら、

私は副業として、

ネットビジネスを始めることにした。

清掃の仕事はきつかった。

いつかネットビジネスで稼ぎ、

脱サラして自由を得たい。

そう思い、

私はネットビジネスを志していった。

・ネットビジネスと社会の現実。

ネットビジネスを始めたが、

最初は0円報酬の毎日。

全然稼げない。

やっと稼げたといっても、

アマゾンアソシエイトのクッキー報酬、

52円である。

全然稼げない。

でも、

メルマガとブログを運営し、

必死で仕事を終わってはネットビジネスをした。

そうして一年以上経つ頃、

ようやくネットビジネスで稼げるようになる。

副業として月収3万円、5万円、10万円、20万円と、

稼げる月もあった。

努力は報われる。

そう感じた時だった。

でも私は自分のために生きている。

それだけでは満足出来なかった。

社会のために生きたい。

世界のために生きたい。

そう考えた私は、

Google Adosence をやるために一度消した、
ホームページの記事を、
再び、新たに作り始めることにした。
そうして、
今は自殺サイトは、どうなっているのだろう。
そう思った私は、
再び、
ネット検索で『自殺』と検索し、
自殺サイト巡りをすることにした。
結果、
自殺サイトを見て思ったことは、
『何も変わっていない。』ということだった。
自殺サイトを見れば、
今も変わらず、
死にたい、
いじめられたと書いている人が沢山いた。
私は自分の幸せを求めて生きていて、
心の精神状態も落ち着いて幸せに生きていたが、
今も、世界には苦しんでいる人が沢山いることを知った。
そうして私は再び、
自殺サイトにメッセージを書くことを始めた。
私のメッセージを受け取りたくない人もいる。
だから時間を置いて、
不定期にメッセージを書くことにしたのだ。

・ワールドビジョンのクリスマス募金の開始。

私は清掃会社でも毎月の収入があるし、

ネットビジネスでも、

毎月、稼げるようになった。

自分のためにお金を得るだけでなく、

社会のためにもお金を使いたい。

そう考えた私は、

寄付先を探す事にした。

様々な慈善団体のウェブサイトを見た。

そうして寄付したお金がどう使われるか。

活動費として寄付したお金の一部は、

慈善団体のお金にもなるが、

その割合はどのくらいか。

寄付したら、どのようなことに使われるか。

そういうのを調べた結果、

私はワールドビジョンのクリスマス募金に寄付する事にした。

このクリスマス募金は、

食料や水に関する慈善活動をするための募金だった。

食料に困っている人は世界には沢山いるし、

水に困っている人も沢山いる。

井戸なども、現地の人に働かせて、

報酬として食料などをあげる形の活動など、

これなら良い使い道になるのではないかと私は思い、

ワールドビジョンのクリスマス募金に、
これから毎年、
1万円寄付していこうと私は考え、
寄付をすることにした。
そうして32歳の私も、
今年も、
このクリスマス募金に1万円寄付した。
1万円など、
大した金額ではないかもしれない。
でも、
そのお金の一部で、
誰かが幸せになるなら、
私の寄付も無駄ではないだろう。
そう私は思っている。

・シルバー・バーチとの出会い。

あるきっかけで、

シルバー・バーチというキーワードに出会うことになる。

ウィキペディアでシルバー・バーチと検索してみると、

シルバー・バーチに関する事が書かれている。

私が悩み苦しんだ答えが、

シルバー・バーチにあるような気がした。

そうして私は、

アマゾンでシルバー・バーチの霊訓を購入した。

そうして読み始めた。

素晴らしい本だと思った。

そうして私はスピリチュアルに関する事も、

学び始めるようになった。

・転職、そして今。

清掃会社で働いていたが、

業務時間などで不満がたまり、

職場の上司に怒られ、

私は、この仕事を辞めようと思えるようになった。

そして私は相談の上、

清掃会社を辞めることにした。

そして私は、

給料は高くないけど、

仕事環境の良い職場を探す事にした。

そうして出会ったのが、

32歳現在の私も働いている今の職場である。

今の職場については、

職場に迷惑がかかるといけないので、

詳しく話すことは出来ない。

今も仕事を続けて、

副業でビジネスをし、

家族と共に、

私は生きている。

・現在の日々について。

現在の私はというと、

月の初めにチケットぴあを見て、

演劇のチケットやクラシック、

ライブなどのチケットを購入して、

日々、楽しんでいる。

劇団四季のライオンキングやリトルマーメイド、クレイジー・フォーユーや、人間になりたがった猫も見た。

年内にアラジンも見ると予定である。

その他に、

海の夫人という演劇も見たし、

クラシックでは、

ベートーヴェンやバッハ、ブラームスなどを聴き、

時に J-POP のライブビューイングにも行く。

国立新美術館には一年に何度も行き、

映画は、

進撃の巨人のアニメやアナと雪の女王、

かぐや姫の物語、ベイマックス、インサイドヘッドなども見る。

時に戦争資料館の昭和館にも行くなど、

様々な体験をしながら生きている。

平日は、

朝起きて、

MP3 プレイヤーで、

オーディオブックを聴きながら電車に乗る。

そうして帰り道などの空き時間には、
iPhone の Kindle アプリで、
電子書籍をひたすら読む。
現在までに、
Kindle アプリで 2000 冊以上の本を読んでいる。
哲学の本も大量に読んでいるし、
時に政治に関する本も読んでいる。
本当に重要な本は、
アマゾンで新品で買い、
それ以外は、
ブックオフで様々な本を大量に買って読んでいる。
ネットビジネスも、
メルマガとブログを使い、
稼ぐ事より、
徳を積むこと。
社会に貢献する事を第一に活動している。
人生の中で、
今が一番、幸せな事もある時かもしれない。

・終わりに

以上、いかがでしたでしょうか。

私の32年の人生を、

大急ぎで振り返ると、

こんな感じです。

もっと詳しく書けば、

色々な事があります。

でも、私は、

こうして生きてきました。

私は、今まで出会った中で、

一番、凄い人だと言われたことが過去にあります。

でも、

私より凄い人はいるだろうし、

そう言われた時の私より、

今の私の方が、

何倍も凄いらしくなっていると思います。

私は知識が豊富ですねと言われたことがあります。

でも、この自伝を見れば分かるように、

私は成績も、

そこまで良くないし、

幼少期はテレビゲームばかりしていたのです。

でも、

大学時代にパソコンに出会い、

大学時代にブックオフに出会い、
大学時代にアマゾンに出会い、
パソコンで様々な経験をし、
ブックオフで、大量の本に出会って読書し、
アマゾンで良質な本を手に入れ、
靈性を磨いています。

今の私も、
未来の私が見たら、
大した事無いなと思うと思います。

実際、そうなると思うし、
そう思うくらい、

未来の自分は更に、
凄惨な存在になれたらと思います。

私は自伝を書いた理由は、
色々ありますが、
その理由の一つが、
尾崎豊の永遠の胸にある、

『生まれたことに意味があり 僕を求めるものがあるなら
伝えたい 僕が覚えた全てを 限りなく幸せを求めてきた全てを』

この歌詞の影響があると思います。

私はかつて教師を目指していました。

そして今は、
教師という職業より、
ずっと自由に、

インターネットを使って、
自由に世界を変えるために、
教育をしています。
私を伝える事で、
何かの参考にしてもらいたい。
悪いところは、
他山の石や反面教師にしてもらいたい。
この本から学び、
私より優れた存在が、
たくさん生まれて欲しい。
そう思うのです。
だから、
この自伝は、
30代の人を読んでも良いし、
10代の人を読んでも良いのです。
自分は、もっと良い人生を生きてやる。
そう思う方は、
ぜひ、そうしてください。
貴方の人生の成功と幸せを、
心より願います。
未来の自分が、
32歳以降の自伝を書くかは分かりません。
でも、私は書きました。

この本を読むことで、
何かのお役に立てたら幸いです。
人間の魂は未来永劫です。
私が書いた本の中に、
江川剛史の言葉 370 という本があります。
その本の 370 番目に、
未来永劫の時の中で、
利他に務める。
そう書いています。
私も未来永劫という時の中で、
利他を務めて生きたいと思います。
神様が創った、
この世界の法則は完璧で究極であるかは、
今の私には分かりません。
不完全かもしれません。
でも良いのです。
私達が未来永劫の時の中で、
全ての存在のために生きていけば、
世界は不完全でも、
より完璧に、
より素晴らしくなる。
未来永劫の時の中で、
利他に務める。
私は、これを胸に生きていきます。
ありがとうございました。

2015年8月14日

著者 江川剛史

この書籍は、改変しないのであれば、
自由に配布することができます。